

●旅足川峡谷

久田見高原は隆起準平原を成し、準平原を侵食した旅足川は典型的なV字谷が連続する。数10万年前以降の侵食によりV字型の谷が形成された。峡谷の景観は新旅足橋から観察できる。

地質は美濃帯堆積岩の泥岩を主体とし、部分的にメランジュが分布する。メランジュにはチャートや砂岩の巨岩体が含まれ、また、泥岩には細粒砂岩が挟まれており、それらの岩体が侵食作用に影響を与えている。

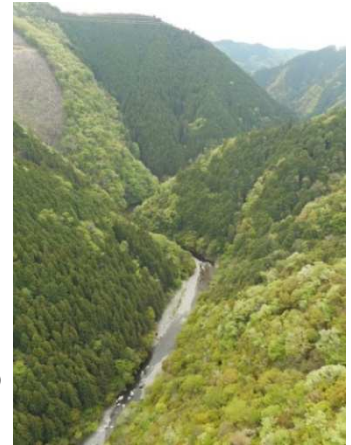


図1 旅足川峡谷(新旅足橋から展望)

⑥古里の山

加茂地域における主な山を紹介する。山は「ぎふ百山」の2座、「続きふ百山」の7座、特筆する山3座で、よく知られた山・親しまれる山・特色ある山をとり上げた。



図2 古里の主要な山の分布

国土地理院の地図閲覧サービスの電子地図 Web から引用・加筆



図3 美濃・阿寺山地の投影断面図(木曾敏行、1963より引用・加筆)

加茂地域の山は美濃山地に属し、尾城山を最高峰として西南西に向かって低くなる。美濃山地は隆起準平原が侵食されているため、侵食作用が少ない山の頂上は、緩やかな山頂や平坦に近い山頂部が残る。山頂の標高は地域ごとで類似しており、南西に向かって高度が徐々に低くなっている。美濃山地は、準平原の名残がみられるので、美濃高原と呼ぶことがある。

美濃山地は断層でブロック化されており、とくに阿寺断層を挟んで高度に大きな違いがある。美濃山地は標高約 600～1100m の山々が、東方の阿寺山地は標高約 1500m 以上の山々が分布する。美濃山地と阿寺山地の高度差が 700m を超えるのは、阿寺断層の垂直変位が 700m を超えることを示す。何回もの地震活動で東側が相対的に隆起した結果である。加茂地区の美濃山地には、赤河・白川・佐見断層が分布するため、断層によるブロック化がみられる。

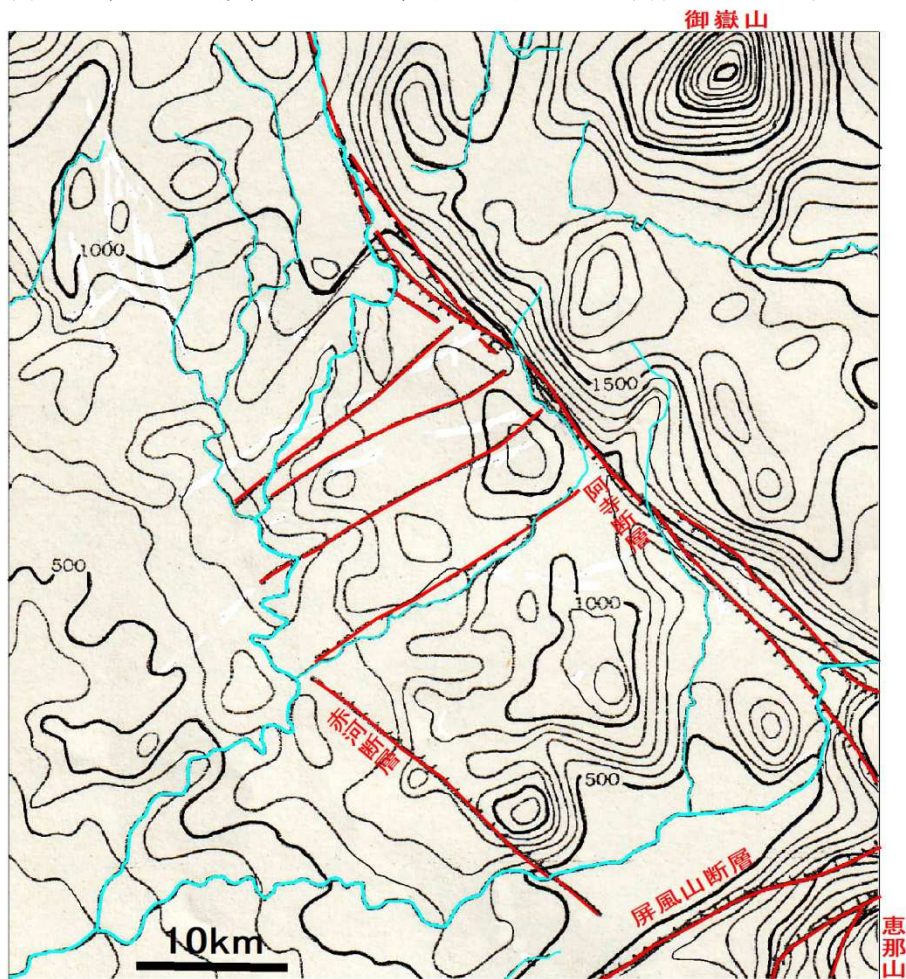


図4 美濃・阿寺山地の接峰面図（岡山, 1961）

岡山（1961）から引用・加筆

●尾城山 1133.0m（ぎふ百山）戦国時代の砦跡

白川町・東白川村・加子母の境界に位置し、加茂地域の最高峰である。地質は濃飛流紋岩の溶結凝灰岩（下呂火山灰流シート）が分布するが、山麓付近は阿寺層の凝灰岩・凝灰質砂岩などが分布する。凝灰岩には火山噴火の証拠を示す火山豆石が含まれる。阿寺断層の活動で隆起した阿寺山地の急峻な地形と比較して、尾城山は緩やかな地形を形成している。緩斜面に岩塊流が分布する。岩塊流は、水の凍結融解によって破壊された岩塊が斜面を一体となって移動した舌状の堆積物で、美濃高原における濃飛流紋岩の山の緩斜面にしばしば分布する。とくに、笠置山の北斜面には典型的な岩塊流が多数分布する。

山頂の砦跡は、飛騨国の三木氏が苗木の遠山氏を見張るために造られた。尾城山に関連して、3町村による「尾城山サミット」が毎年開催される。

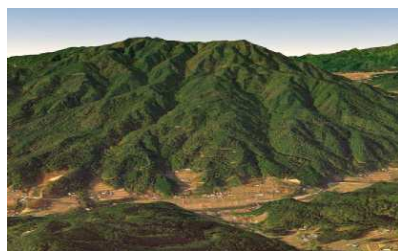


図5 尾城山（Google Earthで作成）

南方からの鳥瞰画像



図6 岩塊流（佐見登山道沿）



図7 尾城山（上佐見から望む）



図8 尾城山（加子母から望む）



図9 山頂部の緩やかな地形  
「ヤマレコ」より引用

●ニツ森山 1223.5m(三角点は付知町) (ぎふ百山) 展望良好

双峰を持つことからニツ森山とされる。あらゆる方向から山頂に並ぶ2つの峰を観ることができるが、福岡町からの遠望景観(図13)がすばらしい。また、加茂地域において、登山の人气が高い。

地質は濃飛流紋岩の溶結凝灰岩(下呂火山灰流シート)が分布し、南麓には加須里層、花崗閃緑斑岩などが分布する。山頂一帯から、御嶽山・阿寺山地・中央アルプス・南アルプス・恵那山・笠置山などの大展望が広がる。侵食が進んで急峻な場所があり、山頂の岩盤、岩壁、急崖、多数の巨岩等の岩石を楽しめる。

大ナラ・こうもり岩・大岩・シャクナゲ群生地・氷餅の池などを巡ったり、ハングライダーなどを楽しむことができる。薬研洞(やげんぼら)の大ナラは県下一の大木で、1967年に岐阜県天然記念物に指定された。



図10 ナラの巨木



図11 ニツ森山(黒川から望む)

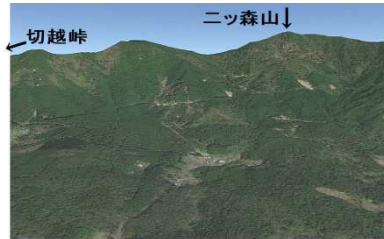


図12 ニツ森山(Google Earthで作成)



図13 ニツ森山(福岡町から望む)



図14 北北東方向の展望 「ヤマレコ」より引用・加筆

西方からの鳥瞰画像

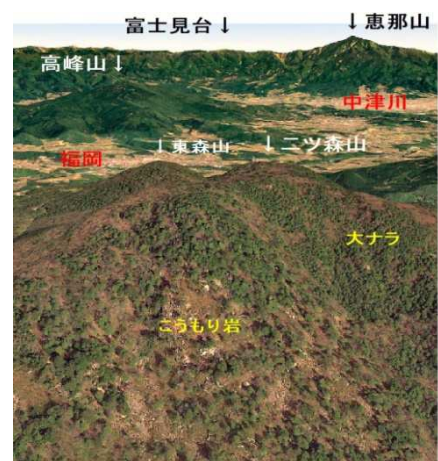


図15 ニツ森山全景(Google Earthで作成) →

北西方からの鳥瞰画像



図16 山頂の岩盤(濃飛流紋岩)



図16 こうもり岩とその岩穴



「ヤマレコ」より引用



図17 シャクナゲ群生地

「ヤマレコ」より引用

●捨難山 すてなぎさん 983.4m (特色ある山) 焼畑を代表

焼畑地名を意味する「難」を持つ捨難山は、加茂地域の焼畑を代表している。焼畑を意味する地名には、「ナギ」(難)、「ソレ、ゾレ、ソウリ」(反)、「サシ」(指)などが含まれる。捨難山の名称は、加茂郡地域の焼畑に由来すると言われる。各地で、焼畑のことをナギ畑と呼んでいた。また、白川町の柿反上(カキゾレ)、無反(ムソレ)なども焼畑に由来する。明治30年森林法制定され、焼畑が消滅した。

濃飛流紋岩の溶結凝灰岩(下呂火山灰流シート)が分布する。



図 18 捨難山(柿反中から望む)



図 19 狭い山頂部

●箱岩山 978.9m (続きふ百山) 箱状の巨岩が多産

きれいな山体で山頂部の凸部を特徴とする、黒川を代表する山である。黒川箱岩太鼓・登山などで町民に親しまれている。地質は濃飛流紋岩の溶結凝灰岩(下呂火山灰流シート)が分布し、いたるところに巨岩が転がり、また、小規模な岩塊流もみられる。箱状の巨岩は溶結凝灰岩の節理(冷却固結時に形成)に沿った割断で形成された。巨岩、岩塊流、岩壁などは濃飛流紋岩分布地域に特徴的にみられる岩石である。



図 20 箱岩山(黒川から望む)  
山頂部に箱岩

図 21 箱状の巨岩→  
(左:大岩)  
(右2岩:直方体)

方状節理によって垂直な割断面を形成するため、箱状の巨岩が多産



図 22 展望岩場から黒川を展望  
この岩盤が箱岩の由来



図 23 稜線付近の巨岩群



図 24 山頂の石仏  
囲む岩石は山頂付近の濃飛流紋岩

●白山(大山白山) 862.5m (続きふ百山) 信仰

白川町田代高原の東方の白山は、山頂直下に大山白山神社が祀られている。718年加賀白山の白山比咩神社より勧請し、水晶山を経て鎮座したと言われる。鳥居前の駐車場から、参拝、社叢、緩やかな山頂部を巡ることができる。

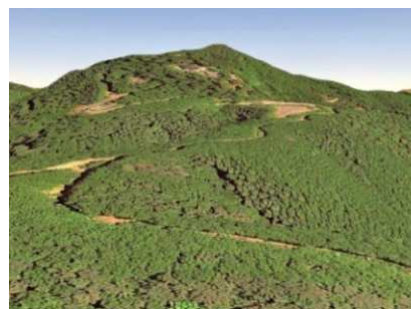


図 25 白山(Google Earthで作成)→  
南西から鳥瞰画像

地質は濃飛流紋岩の溶結凝灰岩(赤河火山灰流シート)が分布し、比較的緩やかな山体の地形を形成している。

神社の境内一帯はスギの大木が 300 本以上繁茂する白山神社の社叢が広がる。岐阜県指定天然記念物の大山のスギは、根元の周囲 12.8m、樹高 41.0m、樹齢約 700 年とされている。

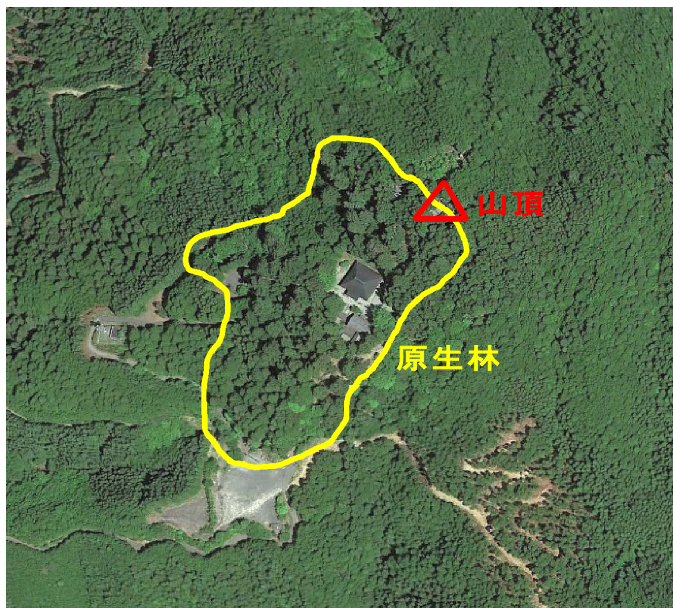


図 26 スギ原生林の分布 (Google Earth を引用・加筆)



図 27 大山のスギ



図 28 白山山頂部 (鳥居と駐車場)



図 29 大山白山神社



図 30 奥の院への石段  
「ヤマレコ」より引用

●水晶山すいしょうやま 687.6m (続きふ百山) 水晶と電波塔

水晶が産出することで命名された。山頂まで専用道路があり、頂上には平坦面が広がり、電波塔等の施設がある。地質は美濃帯堆積岩のメラングジュが分布するが、水晶山の主要部はメラングジュのチャートの巨岩体が分布し、チャートの隙間や割れ目に水晶が産出する。

国土地理院 2 万 5 千分の 1 地形図で水晶山と記名されている山は、全国に 15 座を超え、岐阜県には、城山(岩村城)の約 2 km 東方の「すいしょうざん」(標高 958m、花崗岩)及び美並町八坂駅の約 3 km 東方の「すいしょうやま」(標高 546m、チャート)の 2 座がある。なお、同地形図に記名のない水晶山(すいしょうやま)が、釜戸町の竜吟の滝の約 300m 北(標高 459m、花崗岩)にある。



図 31 水晶山 (Google Earth で作成)  
西方から鳥瞰画像



図 32 水晶山  
林道から望む



図 33 山頂の電波塔  
「ヤマレコ」より引用



図 34 水晶  
(チャートの隙間)

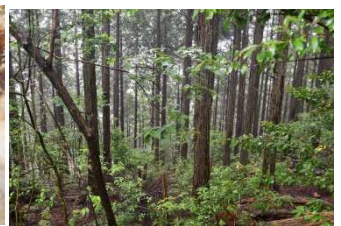


図 35 山頂直下のスギ林  
「ヤマレコ」より引用

●見行山 905.1m (続きふ百山) 断層と棚田  
福地からの登山道は、山麓下部に花崗岩、美濃帯堆積岩類の砂岩が分布し、山頂一帯は濃飛流紋岩の溶結凝灰岩（赤河火山灰流シート）が分布する。約 300m 東方（赤河峠の西）の鞍部に赤河断層が通り、相対的に西側が隆起して断層崖を形成した。この中野方町坂折の棚田は断層崖沿いの崖錐堆積物から成る傾斜地に作られた。  
八百津町の最高峰である。

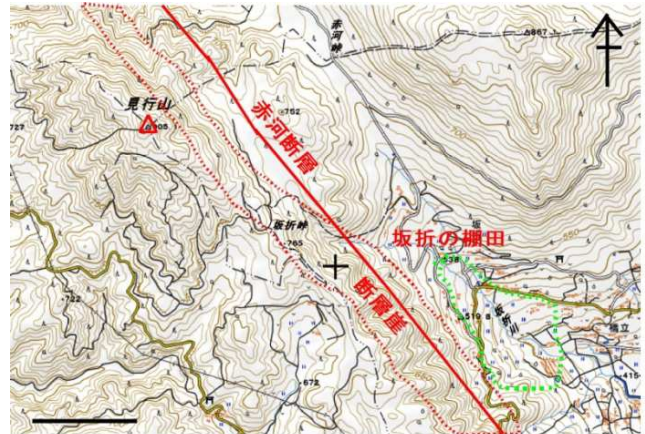


図 36 見行山、赤河断層と棚田

国土地理院の地図閲覧サービスの電子地図 Web から引用加筆



図 37 見行山（福地峠西から望む） 図 38 山頂直下の伐採林道

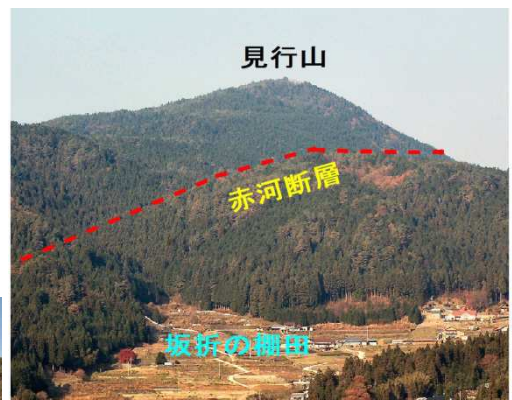


図 39 見行山（笠置山から望む）



図 40 見行山山頂



図 41 見行山（Google Earth で作成）

●納古山のこやま 633.0m (続きふ百山) 展望良好

上麻生の組織地形の最東端に位置し、岩石は美濃帯堆積岩類のチャートから成る。チャートは稜線と同じ方向に分布し、随所にチャートの岩盤が露出し、岩場や岩壁、滝などがみられる。山頂の 360 度の大展望と初級中級の登山コースなどで知られる山として親しまれている。



図 42 納古山  
(下米田町から望む)



図 43 親猿の滝（チャート）  
木和谷の登山道沿い



図 44 山頂の展望台  
チャートの岩盤と石積



図 45 登山道の岩場 (チャート)



図 46 天空岩 (チャート)  
「ヤマレコ」より引用



図 38 北北西方向の展望



図 39 北東方向の展望

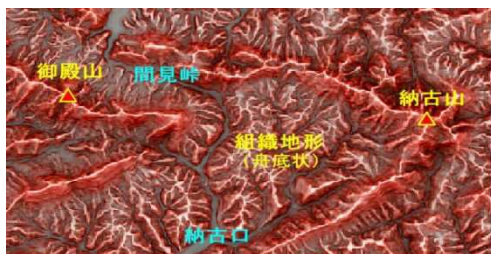


図 40 組織地形上の納古山・御殿山  
(チャート)



図 41 組織地形の地質図

岐阜県地質図「ジオランドぎふ」を使用加筆  
「赤色立体地図©アジア航測株式会社」を使用加筆



図 42 納古山  
(Google Earth で作成)  
西方からの鳥瞰画像

●『御殿山』ごてんざん (559m) (続ぎふ百山) 信仰

国土地理院の2万5千分の一地形図には、名称と標高が記載されていない。稜線上の西北西の平木山は標高554mである。地質は美濃帯堆積岩類のチャートで、チャートの分布方向が山稜線方向で、組織地形(図49・50)を形成している。美濃加茂市の最高峰で、麓付近にキャンプ場がある。

白山神社に、加賀白山の白山本宮比叡咩大神の分身を祀った祠がある。



図 48 御殿山 (南東から望む)



図 49 登山口の白山神社鳥居



図 50 山頂の白山神社祠

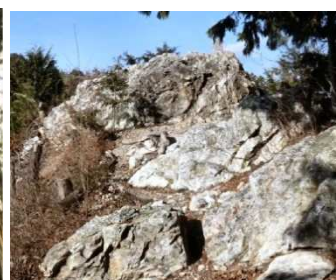


図 51 展望岩の崖 (チャート)



図 52 稜線の連続 (Google Earthで作成加筆)  
南方からの鳥瞰画像

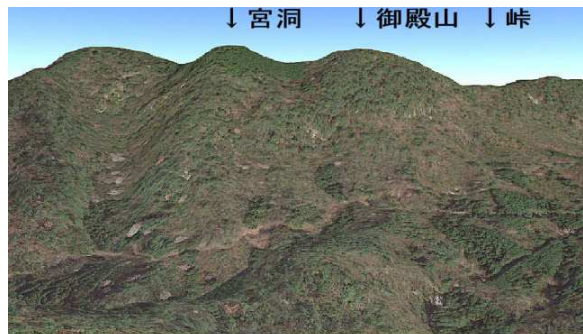


図 53 御殿山 (Google Earthで作成)  
南方からの鳥瞰画像

●富士山 (山之上富士) 357.1m (特色ある山) 信仰

山之上富士は、国土地理院の2万5千分の一地形図に「富士山」と記載してある。『ふじさん』と読む富士山は南島原市に1座あり、『ふじやま』と読む富士山は、埼玉・千葉・愛知県に各1座、群馬県に2座、栃木県に3座ある。山之上富士が、国土地理院の2万5千分の一地形図に「富士山」(ふじさん)と記載されていることは珍しい。なお、郷土富士(〇〇富士など)は全国に400座以上、岐阜県に13座ほどある。山之上富士は侵食されにくいチャートで形成され、西の高木山から見ると円錐型である。

富士山の命名は、江戸時代に駿河出身の高僧白隠が岩瀧山で修行したことが関係しているとされる。山頂に富士神社が祀られている。



図 54 山之上富士  
高木山から望む



図 55 富士山神社

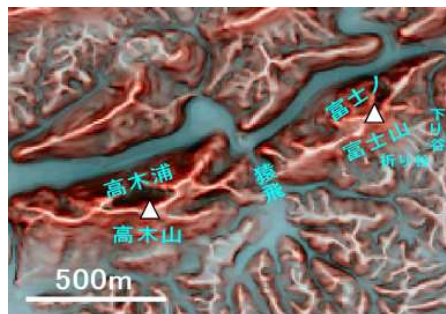


図 56 富士山地域の地形  
「赤色立体地図©アジア航測株式会社」  
を使用加筆



図 57 富士山地域の地質図  
岐阜県地質図「ジオランドぎふ」  
を使用加筆

●愛宕山 (米田富士) 261m (特色ある山) 信仰と城跡

米田富士は、国土地理院の2万5千分の一地形図では「愛宕山」と記されている。山頂から東北東方向の稜線一帯はチャートが分布する。

中腹に加茂神社、山頂に愛宕神社が祀られている。



図 58 米田富士  
中川辺の山川橋北詰から望む

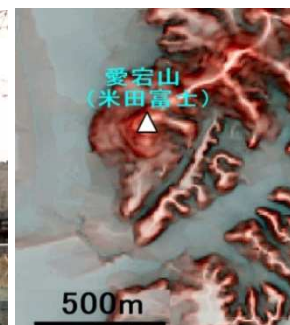


図 59 愛宕山の地形  
「赤色立体地図©アジア航測株式会社」  
を使用加筆





図 60 加茂神社



図 61 愛宕神社



図 62 米田城址の看板



図 63 本丸を囲む崖

●白山（米田白山）273.1m（続きふ百山）山頂稜線

白山は東北東方向に稜線が発達し、山頂は稜線の西部に位置する。稜線の方にチャートが分布し、岩場が多く、クライミングに挑戦できる崖がある。東海環状自動車道が貫くことで知られる。



図 64 白山（米田白山）（鬼飛山から望む）



図 65 水晶



図 66 白山槍（チャート）

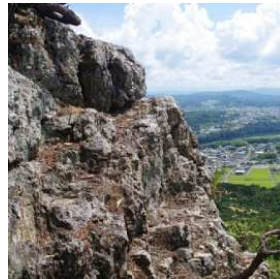


図 67 タイタニック岩



図 68 馬の背岩（チャート）

●城山 265m（特色ある山）城跡と展望

日本ラインの絶景を展望できる城山は、室町・戦国時代の城跡として知られ、猿啄城、猿飛城、勝山城とも呼ぶ。地質は美濃帯堆積岩類のチャートから成り、各務原山地の稜線を形成している。

各務原山地の東部に位置し、坂祝の組織地形に入る。

室町～戦国時代の山城で、飛騨・美濃・尾張への重要な拠点であった。坂祝町指定の史跡。



図 69 城山（勝山から望む）

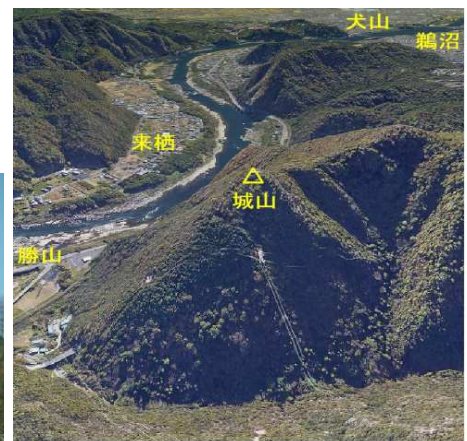


図 70 城山 (Google Earthで作成加筆) 北方からの鳥瞰画像



図 71 城山頂上 図 72 城跡の碑 図 73 猿啄城展望台  
(西稜線のピークから望む)

図 74 チャートの活用(城山登山道沿)  
左：白河神社?の石碑 右：不動明王?の岩絵

●その他の山(続きふ百山 8 座、その他 3 座)

- ・ 砥山、岳山、鹿遊山、藤島山、手掛岩山、寒陽気山、高時山、新巢山(続きふ百山)
- ・ 田代山、鬼飛山、天狗山(その他)

⑱ 小河川の河岸段丘（七宗町万場～上中切）

上中切～万場地域には、神湊川より少し高い位置に平坦な地形が広がる。これは古神湊川が形成した河岸段丘である。図の段丘には円礫層が分布しない。美濃帯の砂岩の岩盤と薄い堆積物が分布する、岩石段丘に近い侵食による段丘である。

山地を流れる小河川沿いの河岸段丘としては規模が大きい。古神湊川の水量が多い時代に多量の土砂が堆積した。この時代には、津保川または菅田川から神湊川へ流れていたことが推測される。



図 75 河岸段丘（Google Earth で作成加筆）  
南方からの鳥瞰画像

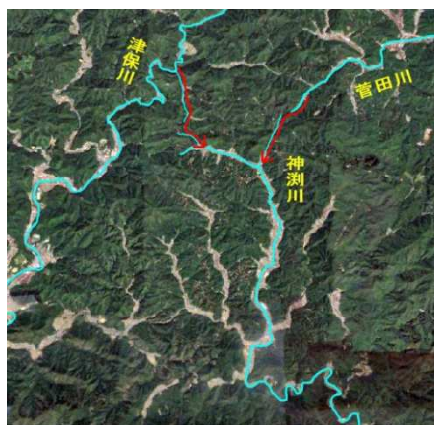


図 76 河岸段丘（七宗町上中切）

図 77 神湊川・津保川・菅田川の流路（Google Earth で作成加筆）  
津保川または菅田川から神湊川への古流路（赤線）が想像される

⑳ 蛇行河川と環流丘陵（七宗町室兼～下大橋）

河川が大きく曲がる部分（蛇行）があり、この大曲りを、河川の蛇行という。大地が隆起する過程で、河川が侵食しやすい岩石を流れるため蛇行した。七宗町の河川は多くの蛇行がみられ、室兼から上大橋にかけての神湊川と葛谷川に、典型的な蛇行河川がみられる。

下大橋において、南側に膨らんだ蛇行河川の小高い丘が還流丘陵である。約 4 万年前、古神湊川がこの丘の北側を流れ、その後に丘の南側を流れたため残丘のような丘陵を形成した。



図 78 河川蛇行と還流丘陵

国土地理院の地図閲覧サービスの電子地図 Web から引用加筆



図 79 還流丘陵（Google Earth で作成加筆）（下大橋）  
旧神湊川跡に中位段丘、神湊川沿いに低位段丘が発達

## ④旅足川の蛇行峡谷と環流丘陵群

八百津町の旅足川は大規模な峡谷を形成し、随所で河川の蛇行が発達する。久田見高原の隆起に伴って活発に下刻されて蛇行したため、掘削蛇行に該当する穿入蛇行である。旅足川中下流部の11地点で環流丘陵が形成されている。新旅足橋から蛇行と環流丘陵を観察できる。

この地域は主に泥岩から成る地層（部分的にメランジュ）が東北東方向に分布し、旅足川は地層の走向とほぼ並行して流れている。メランジュにはチャートや砂岩の巨岩体が含まれ、その硬さの変化が蛇行に関係することがある。また、本地域において、地層の走向（方向）と河川の向きが蛇行形成に関係する傾向がある。地層の走向と河川が並行する地域（旅足川中下流部）に蛇行が発達しやすく、直行する地域（長曾川・亀ヶ谷川・旅足川上流部）は蛇行が減少している。また、環流丘陵は旅足川中下流部に多数発達するが、他では長曾川に1カ所である。

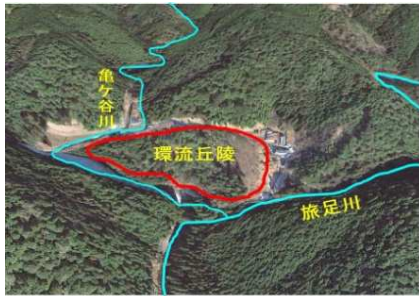


図 80 環流丘陵（大鹿見）  
Google Earth で作成加筆  
西からの鳥瞰画像



図 81 環流丘陵（新旅足橋から望む）  
赤色が環流丘陵

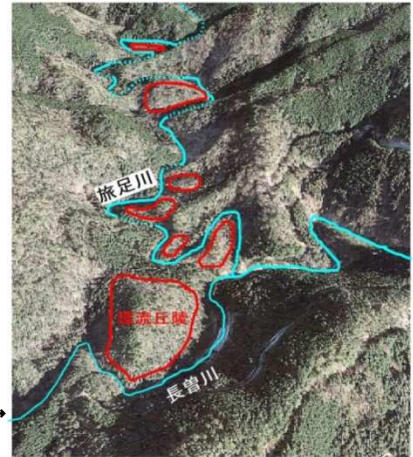


図 82 蛇行峡谷の環流丘陵群（長曾川合流地域）→  
Google Earth で作成加筆、西からの鳥瞰画像



図 83 地形図で観る蛇行峡谷と環流丘陵

国土地理院の地図閲覧サービスの電子地図 Web から引用加筆、赤線内が環流丘陵

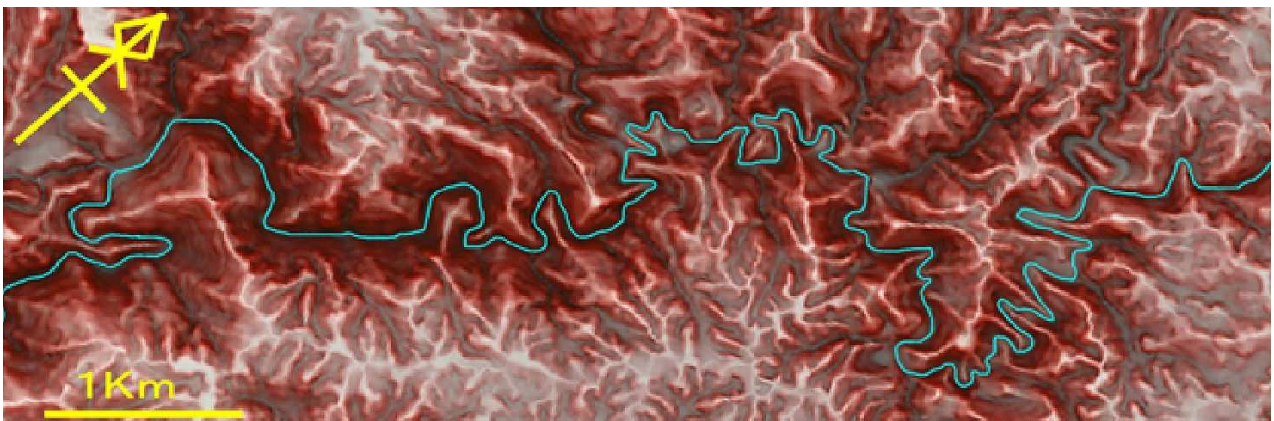


図 84 赤色立体地図で観る蛇行峡谷 「赤色立体地図©アジア航測株式会社」を使用加筆

### ⑮上麻生の球状砂岩

長径が1m以上ある卵状岩石が美濃帯堆積岩の砂岩層から産出する。球状の岩石は、ノジュール（団塊）や玉ねぎ状風化物などで知られるが、砂岩の地層の中に、球状の岩石として産出する例は極めて珍しい。



図 85 ノジュール（左）玉ねぎ状風化（右）



図 86 砂岩層内の球状砂岩（上麻生飛騨川右岸）

### ⑯マンガン坑道跡（七宗山地域・坂祝町）

黒っぽいチャートはマンガンを含むことがあり、マンガン鉱石が濃集した部分を、マンガン鉱床として掘削した。マンガン鉱床はチャートが分布する地域にしばしばみられ、加茂地域の各所で採掘された。葛谷川の上流、七宗山への林道沿いに、マンガン坑道跡がある。

なお、マンガン鉱床は、坂祝町の木曾川左岸（犬山市）の栗栖鉱山が大規模に採掘した鉱山として知られる。犬山市栗栖からの登山道沿いに案内看板があり、坑道内を見学できる。また、坂祝町から木曾川の対岸の崖に坑道口が3つ観察できる。



図 87 マンガンを採掘した坑道跡  
（葛谷川上流の林道沿い）



図 88 木曾川左岸の坑道口  
坂祝町取組から望む



図 89 栗栖鉱山の坑道  
（犬山市栗栖）

### 引用文献

岡山俊雄先生を偲ぶ会（1988）日本列島接峰面図（地図資料）日地出版。

木曾敏行（1963）木曾川流域の地形発達．地理学評論，36(2), p87-109.

### 参考 Web

飛騨美濃山語り、中田裕一

国土地理院、GSIMaps、地理院地図、電子国土 Web.

ジオランドぎふ、モバイル版.

YAMA P、株式会社ヤマップ、福岡市.

YamaReco、山行記録共有データベース「ヤマレコ」、株式会社ヤマレコ、松本市.